

関東甲信地方の3か月予報（5～7月）解説資料

平成23年4月25日
気象庁地球環境・海洋部

1. 予想される向こう3か月の天候

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と気温、降水量の確率は以下のとおりです。

5月 天気は、数日の周期で変わるでしょう。平年に比べ晴れの日が多い見込みです。

6月 天気は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

7月 天気は、平年と同様に前半は曇りや雨の日が多く、後半は晴れの日が多い見込みです。

確率(%)	5～7月			5月			6月			7月		
気温	低	並	高	低	並	高	低	並	高	低	並	高
	20	30	50	30	30	40	20	30	50	20	40	40
降水量	40	30	30	40	40	20	30	40	30	30	40	30
	少	並	多	少	並	多	少	並	多	少	並	多

参考資料：関東甲信地方の平年の晴れの日と雨の日

平年の日数(日)	5月	6月	7月
晴れの日	18	11	14
雨の日	10	12	12

注) 季節予報では「日照率40%以上の日数」、「降水量1mm以上の日数」をそれぞれ晴れの日、雨の日の目安としています。日照率は1日の日照時間を可照時間(日の出から日の入りまでの時間)で割った値です(1971-2000年の統計値)。

2. 暖候期予報の見直しについて

最近の天候経過と新しい予測資料をふまえ暖候期の6～8月の天候について検討しましたが、2月24日に発表した暖候期予報の内容に変更はありません。

3. 数値予報による海洋と大気の流れの予想

熱帯域の海面水温偏差の予想(図1)では、ラニーニャ現象は終息して太平洋赤道域は次第に正偏差となるが、予測の不確実性が大きいと、平常の状態となる可能性が大きいと考える。一方、フィリピンの東が正偏差(予報期間の前半が中心)となっており、対流活動(積乱雲の発生・発達など)が活発で下層での低気圧性循環偏差が明瞭となるため、5月は日本付近に流れ込む南からの暖かく湿った空気が平年に比べて弱く、関東甲信地方でも多雨にはなりにくい。一方、6～7月前半にかけては平年と同様に梅雨前線の影響で曇りや雨の日が多い見込み。また、850hPa気温(図2)によると、日本付近は正偏差が予想され、3か月平均では高温の可能性が大きい。特に6月は高温となる可能性が大きい。

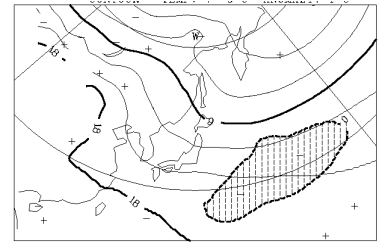


図2 850hPa気温と偏差の予想図
5～7月の3か月平均。等値線間隔は3°C。負偏差に影。

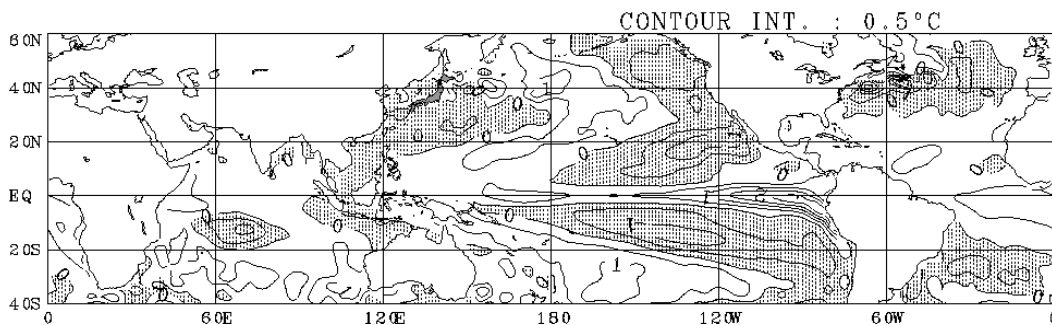


図1 海面水温年差の予想図 5～7月の3か月平均。等値線間隔は0.5°C。負偏差に影。

4. 最近の天候

天気は移動性高気圧におおわれて晴れの日が多かったが、中旬終わりには上空に強い寒気が入った影響でまとまった雨となった。23日までの平均気温は関東南部で平年を上回ったほかは平年を下回った所が多く(図3)、地域平均年差は-0.2°Cだった。降水量は平年を下回ったところが多く(図4)、地域平均年比は73%だった。日照時間は全域で平年を上回り(図略)、地域平均年比は122%だった。

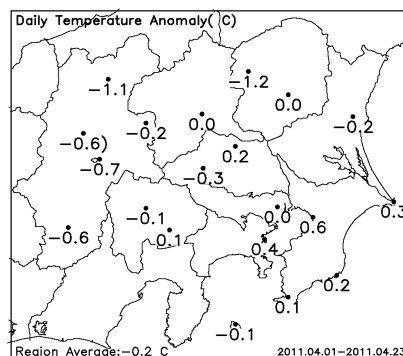


図3 2011年4月1～23日の平均気温年差(°C)

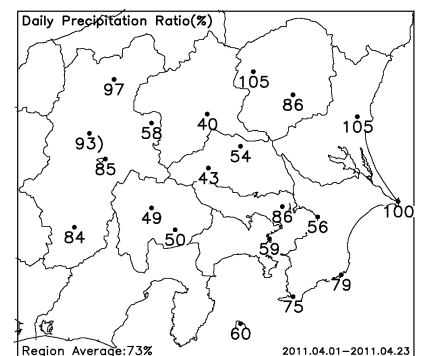


図4 2011年4月1～23日の降水量年比(%)